

⑦ 情報系学グループ運営委員会

本委員会は、20年5月、7月、10月、10月、21年3月の計5回開催し、情報系学教育における学士力を検討した。学士力の定義として、学部レベルで最低限押さえおかないといけないレベルとし、学部卒業後に企業の情報部門、エンタープライズ向け情報システムや組み込みシステムの設計・開発部門において、情報通信系の知識および技能を活用していくことができる力とした。具体的には、①情報通信技術の概念と技術要素が説明できる、②情報通信技術を活用し、モデリングからテストまでの設計・開発工程に取り組むことができると整理し、インターネットで情報系担当教員（サイバーFD研究員）1,506名に意見を求めたところ、109名から「情報を有効に活用する力が必要、スキル面に特化しており問題発見の力が必要、情報通信技術の基本原理を応用する力が重要、社会における情報通信技術の役割や影響を理解し、情報倫理やセキュリティに照らして対応がとれる、卒業後直ちに知識・技能を活用することは殆ど不可能」などの意見を踏まえ、以下の通り中間的にとりまとめた。

<情報科学・工学・システム学教育における学士力>

情報通信系における学士力とは、大学の学部を卒業後、情報通信技術の知識及び技術を活用し、問題発見・解決ができる基礎的な力のことである。

1. 情報通信技術の基本原則および技術的要素の基礎を理解している。

※ 技術的要素とは、通信技術、ネットワーク技術、情報処理技術、マルチメディア、ユーザインタフェース、計測、制御、コンピューター、オペレーティングシステムなどである。

2. 情報通信技術の基本的なツールを必要に応じて、問題発見・解決に利用することができる。

※ ツールとは、プログラミング言語、統合開発環境、UML、業務アプリケーション、ハードウェア設計言語などである。

3. 情報通信技術を応用したシステムのライフサイクル(要件定義、設計、開発、構築、運用、保守)の概要を理解している。

4. 情報通信技術の利用を通じて、社会の安全・安心を考えることができる。

その後、学士力の詳細を検討するため、共通基礎能力を含めた検討に着手した。